

「ニイハオ！」

中国一人旅

その1

山東省・南京など編

5月10日(水)

福岡から釜山へ、そして…

5月13日(土)

仁川から中国の青島へ

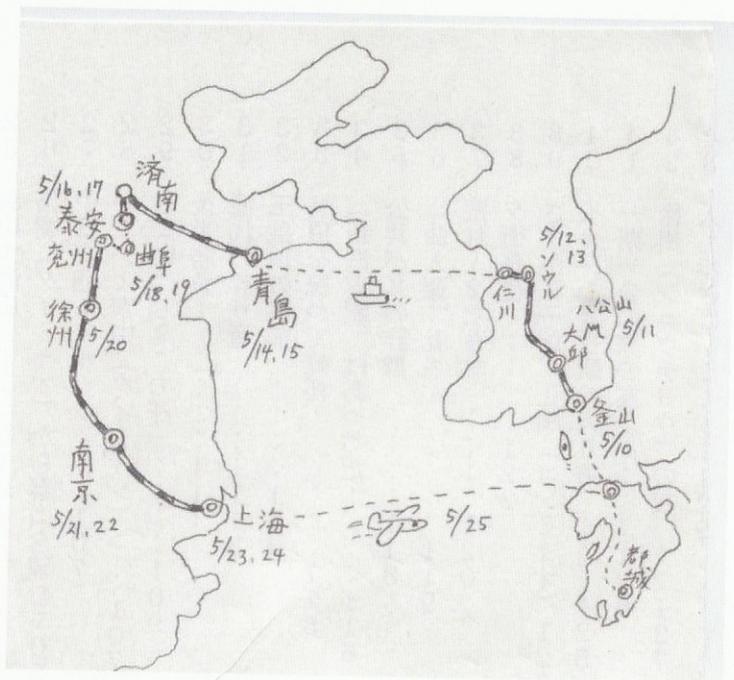
中国一人旅 その1〈山東省・江蘇省〉編

〜2週間で8都市へ〜

目次

1	行く前に	79	22	天苑の風	100
2	出発だ	79	23	華嚴寺の「縁」	101
3	大邱(テグ)市のボクの宿	80	24	火車は山東の畑中を走る	102
4	クッペー一番に乗れ	81	25	泰山大酒店	104
5	桐華寺(トンファサ)の八重桜	82	26	岱廟(ダイミヤオ)から泰山を望む	05
6	統一大仏に松の風	83	27	中日交通ルール	107
7	八公山(パルコンサン)の山ツツジ	84	28	いよいよ泰山(タイシヤン)	107
8	美しき国	84	29	古(いにしえ)の汗	109
9	靴屋の鄭さんも元気でいた	85	30	後半勝負!	111
10	ソウルへ何キロ?	86	31	憧れの昇り竜	113
11	再びの仁寺洞(インサドン)	87	32	玉皇頂の錠前	114
12	昌徳宮(チャンドククン)の仁政殿	88	33	登頂を祝って乾杯!	115
13	宗廟(チョンミョ)の外壁	89	34	「新汽車站」はあつちだ!	116
14	仁川(インチョン)の地下街	90	35	公共バスの詐欺	118
15	船は青島(チンダオ)へ	92	36	「曲人運」孔さん	119
16	両替所は何処だ	93	37	荒れ〜?た草林	120
17	日曜の栈橋地区	94	38	夕街暮色	122
18	花石楼(ファァーシーロウ)に上る	95	39	さすが孔子だ、孔廟(コンミヤオ)	123
19	当たり外れの夜	96	40	イェンチョウ駅の入り方	125
20	安くて美人の賓館へ	97	41	一期一会の旅の友	126
21	ソアールで「オオ山」へ行こう!	98	42	徐州(シュウチョウ)の夜	127
46			43	人も歩けば	129
45			44	ボク的にいい界限	130
			45	人民解放軍庶民	132

4 7	南京は忘れない	1 3 4
4 8	南京は反芻する	1 3 6
4 9	殺した者はどこに	1 3 7
5 0	庶民市場は元気だ	1 3 8
5 1	第四のタクシー	1 4 0
5 2	植物園に遊ぶ	1 4 2
5 3	平和の証明	1 4 3
5 4	中山陵の星	1 4 4
5 5	九十二歳日本老兵	1 4 6
5 6	魯迅公園	1 4 7
5 7	上海交通事情	1 4 9
5 8	帰りの航空切符	1 5 1
5 9	漢字文化を考える	1 5 2
6 0	豫園商場の賑わい	1 5 3
6 1	路上DVDの真偽	1 5 5
6 2	いよいよ帰国	1 5 6
6 3	旅のまとめ	1 5 7
6 4	旅の短歌再掲	1 5 8
6 5	旅を終えての感想	1 6 0



今回の十六日間の行程図

◎の都市名を赤く塗って下さい。

1 行く前に

(1) 中国に行きたい!

一年半前の秋に韓国を十三日間一人旅して、昨年は地元集落の班長役だったので家を開けられず、今年はず先ず五月に中国と決めた。その目的は四つ。

①山東省にある7400石段の世界遺産「泰山」に登る。

②南京の大虐殺記念館を見て、先の大戦を考える。

③中国を一人で旅行する力をつける。

④生の中国を見て、人々と接する。

行き方は五月の連休明けに出て、自由な日程と行程を決められる韓国のソウルの西の港、仁川く青島の船便を使って中国へ渡る。韓国では前回行けなかった八公山に登り、ソウルを少し見る。

帰りは上海から下関への船で帰国する。(実はこの船便は無かった!)

(2) 心配の声

「中国はまだ衛生状態や、最近の対日関係の悪化から安全面が不安である。もし何かあっても、海外はどこも同じだが、助けには行けないし、お金も送れない(送り方はあるのだが)。」

「それでも行くというなら、それを覚悟で勝手にしなさい。止めても行くだろうから」とは妻の声。友達も心配派が多かった。

(3) ハングルと中国語、ガイド本は

教員を退職して三年間は、NHKラジオで語学講座を聴いて、発音とピンイン(四声によるアクセントの上げ下げ)記号を付けた旅行会話集があれば、日常のこちらの意思を伝える自信はある。

しかし、ハングルは読めても意味が分からず、中国語は意味が推察できても、発音が分からないという現実なので、簡単な辞書が必要だ。

ガイド本としてダイアモンド社の「地球の歩き方」の韓国と中国版を持参した。後者は特に部厚いので、途中で三つに分けて使ったが、地図と観光地ガイド、宿探しに重宝した。

【わが旅は不安背中足前へ

それでも行けば転ばず進む】

2 出発だ

前日の五月九日に福岡埠頭十四時半発、釜山行の高速フェリー「ビートル」を電話で予約した。

当日の宿は前回泊まった所に電話したが、ハングルのテープが聞こえていて、予約出来なかった。後でそれは掛け間違いだったと分かったのだが。

いよいよ十日。曇り空の我が家を朝九時過ぎに出て、33分の高速バスに乗車。バス停まで送ってくれた家内が、バスの窓から急に小さく年取って見えたのでやホコリとした。(家内こそ私がそう見えたそうない!)

例によって宮交バス「スーパーフェニックス号」は昼1時前に福岡一の繁華街・天神に着いたが、コチラは雨だ。ま、仕方ない。西鉄バスセンターのビルで前回同様弁当を買って、さらに今回はおいしそうな「桜餅」四つ入りをお土産に買った。

(今回も詳細な旅日記を付けたが、何と残念にも南京でそれを落として紛失した。後述)。よって細かい数字や名称を忘れて、世話になった人に済まない。後は：男の記憶力次第！)

バス停の屋根で雨の雫を避けながらバスを待ち、十五分で中央埠頭に着いた。

韓国へ帰る若者たちの団体の賑わいを見ながら、弁当を食べた。その後、1万3千円の乗船券と港湾利用料など9百円で諸手続きをし、船の人となる。

いや、その前に両替をしたら、前回は1万円が11万1千W(ウォン)位だったのが、



今回は8万1千W位に下がっていて、驚嘆した。円が下がったのか韓国のウォンが上がったのか、多分両方だろうが。持参した前回のW札8万が輝いて見え出した！

さて船の一階の座席では今回は隣に人も居ず、持って来た毎日新聞連載の切抜き・世界遺産「ソウルの宗廟」紹介記事と、新潮文庫の「中国全省を読む地図」の山東省と江蘇省、上海の部分を読んだ。

充実した内容で著者莫邦富さんの博識に感心すると共に躍進する中国の一面を早くも垣間見た。

【日韓のフェリーに夢を託す旅

博多の雨は釜山で晴れる】

3 大邱(テグ)市のボクの宿

夕五時半過ぎ、天気は釜山に近づくに連れて徐々に良くなり、港を出たら太陽がまだ35度位の高さに見える。釜山は北緯35度(名古屋とほぼ同緯度)だから、日の入りまでまだかなりありそうだ。

ならば一日稼いで大邱まで行こうとタクシーを拾って、1900WでKR釜山駅に行った。

韓国の新幹線KTXなら一時間で着くというので、1万6千W位だったかそれに乗った。やはり3台のTVが天井から下がっており、車のコマーシャルや鳥の旅行マンガの合間に時速300km弱のスピード表示が出て、夕七時過ぎには東大邱駅に着いた。



「八大景区」親しく歩く

彼女たちと別れて、三階の洋館に広い庭と五階造りの円筒の楼が付属した「花石楼」を見物した。

ロシア人が建てて、蒋介石夫妻が住んでいたとガイド本にあり、上品な夫妻のポर्टレートが壁に掛けてあった。応接間や広い浴室、食堂など古びてはいるが往時を偲ばせている。

三階には売店もあり、日本語を勉強していると言うその女性が、平かなのテキストを持って来て、読むのに付き合った。

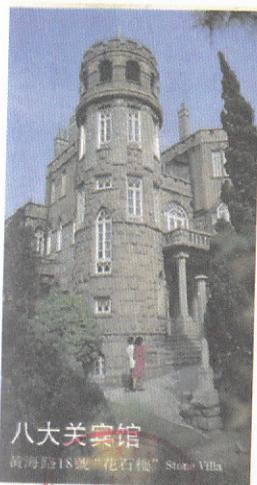
楼からは下の庭で、結婚の記念写真を撮ってもらっている新郎新婦が見え、また山手方向には木々の多いしやれた住宅の屋根屋根が見渡せた。

楼の頂上で、四月からこちらに語学留学していると
言う、愛知の大学生のアベックにも会った。

彼女が韓国人だというので、

「じゃあ二ヶ国語勉強中だね」と笑いあった。

【「花石楼」往時を語る壁写真 眺めて偲ぶ青島の海】



八大关宾馆

黄海路18号“花石楼” Stone Villa

地方観光局监制
参 观 券

237020578701

伍 元

NO. 00003752

ってここから坂道を歩いて出発した。

さてここまでどう来たのか分からないが、ここは山の北東の「大平宮リフト」に乗る前の坂道だ。

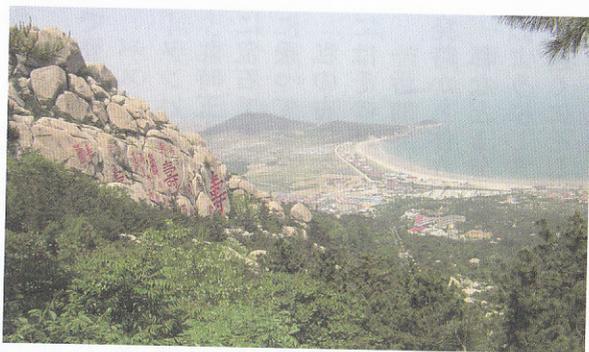
途中の店々には帽子や飲み物が並べてあり、程なく入山口とリフト券売り場があり、往復分40元を払った。(前ページ写真) ガイド本にはツアー代一人12

0元とあるが、なるほどこれで125元だ。

リフトは二人乗りのスキーリフトと同じように、長椅子の前にガイドバーが付いているだけで、何と私はプリリガイド嬢と並んで乗った。

ラオ山の主峰は1133mで、ここからは尾根を南に行かねばならないが、リフトの終点までは中程の中継地を経て6分は掛かった。

ハリエンジュのようなマメ科の木に白い花が咲いて綺麗で、木々の間を歩いて登る人も見えた。また右の岩肌には赤い字で「寿」だの「喜」だの大きく彫られ



ている。

上りながらガイド嬢が私の手帳に、着いてからの予定を中国語で、「元の駐車場に2時半集合の事」などと書いてくれた。

彼女は山には登らないで下で待っているという。

上に着いて、リフト補助員に介助されてイスから飛び降りるように離れると、また懐中電灯と飲み物が並べてある。これは洞窟でも通るに違いないと、ここでは2元で受け取った。(電灯はレンタルで後で返すものと思っていたが、そうではなく買ったのだった)

【ラオ山へ春の一日ツアーバス

リフトから見る木々や岩文字】

22 天苑の風

前の人に続いて登り始めるとすぐ岩の洞窟があり、早速電灯のお世話になった。自然石が組み合わされている隙間を潜ったり登ったりしながら、真つ暗な中を声を掛けつつ、また後の人の足元も照らしつつ、時に

った。これから済南へ行き、明日は泰山に登る」と言
って、中国と山東省の地図を広げたら、皆日本人来訪
者に興味を持って仲間に入れてくれた。私も皆に何処
まで行くのか、
実家はどこか
と尋ねて、互い
に仕事は？歳
は？挙句の果
てに名前から
電話番号まで
聞いて、地図上
の町にその名
前を書き入れ
た。

左隣の潘(パン)さんは四十
三歳で一昨日
行った八大関
景区近くに家
があると言い、
泰安の知って
いるホテルが

いいからと、今夜の予約の電話まで入れてくれた。

女性以外のあとの3人は皆二十二歳で、大学の工業
化学専攻の王(ワン)さん、今は遠く蘭州の発電所に



いるという寧(ニン)さん、それにずうつと眠そうな
丁(ディン)さんで、3つ目の駅で王さんが降りて、
入れ替わって乗ってきた同じ丁さんも二十二歳の曲
阜の師範大学生で心理学を専攻して、将来はカウンセ
ラーになると言った。

山東省だけでも人口は9千万人だそうで、途中の畑
に丈低いビニールハウスが遠くまで広がり、日本への
野菜供給基地になっているとのこと、窓からその広
い景色が眺められた。

【日中の客友となる火車の旅 山東省の畑中西へ】

25 泰山大酒店

さて「済南」で降りて二時間ほど見物するつもりで
切符を買ったが、あとの列車の時刻も分からないので、
このまま「泰安」まで行くことにした。

その内十二時が過ぎたので、寧さんが、自分はい
が私に「昼を食べてきたら、」と勧める。私も先が長
いので一つ先の二階の食堂車へ行った。

日本と同じような食卓が二人掛けで並んでいて、広
い窓からは外の景色がよく見える。メニューが4つあ
って、胡瓜と茄子の挽き肉煮だったかと豆腐の卵ス
プを頼んだら、平らな皿に山盛り来た。

初めは急いで食べないと火車の揺れる度にこぼれ
そうになる。他の客は終わって追い出されて、私一人
で後はゆっくり食べた。